

議会報告会報告書

開催日時	平成30年11月14日（水）午後7時00分～8時43分		
開催場所	松阪市立中部中学校 3階図書室		
出席議員	植松泰之、西村友志、野呂一男、松岡恒雄、深田龍、中村誠、谷口聖		
	司会進行者	深田龍	
	報告者	松岡恒雄、中村誠	
	記録者	谷口聖	
参加人数	14名		
主な質疑応答 意見・要望等	別紙のとおり。		

松阪市議会議長 中島 清晴 様

平成30年11月14日

議会報告会実施要綱第8条の規定により提出します。

議会報告会第3班

代表者 植松 泰之

【第一部の主な質疑応答・意見等】

問 住民協議会の活動交付金について、住民数の多い当地区と、少ない地区と比較して人口の多い当地区は住民一人当たりの交付額が少ない。格差のない交付を求めたいが市はどう考えているのか。

答 住民協議会の規模による格差はあるかと思う。住民協議会への交付金は全体予算の3割相当を43住民協議会に分配し、残りの約7割を住民数で人口割りにすることになっている。交付金予算を全て住民数で分配した場合、更なる格差を生む可能性もあることから慎重に議論を進めていく必要があると思う。

また、現在 自治会連合会との関係性についても議論がなされているので、それも含め議論していく。

問 市民病院の今後について、4月の議会報告会でも質問をしたが、その時の説明では市民病院のあり方検討会において協議し報告をするとのことだったが、未だ方向性についての説明がないが現在までの協議の進捗状況は。

答 将来の地域医療について、議会も地域医療構想における市民病院のあり方調査特別委員会を設置し協議を重ねてきた。済生会病院との合併という選択肢もあるとしたことが報道されたが、決してその方向に動いているといったことではない。今後、三重県の地域医療構想調整会議も開かれることから、その結果報告を受けた上で更に協議を進めることになる、また、桜井委員長らに於いて市内36ヶ所の説明会場を回って協議の進捗状況について説明をしているところであり、特別委員会としても説明の機会を設けるかについては協議していく。

問 山室町には農業用水として利用するための八条ヶ谷池という溜池があるが、先の台風によって漏水が発生し現在もそれは止まっていない。来年の稲作への影響が懸念される上に、改修に於いては農家の作付面積に応じて個別負担も発生すると聞いている。地域の農業を守るという観点からも市はどう考えているのか。

答 松阪市としては3年前に溜池の決壊によるハザードマップを作成したが、農業に対する影響としては確認が取れていない。松阪市としてどうとらえているのか確認する。

問 放課後児童クラブの支援員は、三重県の最低賃金に近い時給で働いてくれているが、保護者会としては負担が増えるので時給を上げることができない。市として支援員の労働環境の改善についてどう考えるか。

答 支援員のなり手不足や高学年の児童が入れないといった様々な問題点は議会としても把握している。給与のことも含め今後協議していく。

問 教職員は児童生徒のために、授業以外にも膨大な作業をしている。労働環境の改善が必要と思うがどうか。

答 教職員の職場について ICT の導入で業務の簡素化を図ってもらっている。教職員の職場環境改善は直接子供たちの学びの環境に繋がっていくことから、議会としても注視していく。

問 住民協議会活動交付金について、住民数 3 3 5 人の住民協議会に対して 1 0 8 万円が交付されている一方、当地域の住民協議会の人口は 2, 2 0 0 人に対し交付額は 4 7 0 万円である、住民一人当たりの交付額に格差がありすぎると思うが市はどう考えているのか。

答 活動交付金を単純に人口一人当たりになると 4 8 0 円ほどになるが、そのままの計算で交付された場合、3 3 5 人の住民協議会には 1 6 万円ほどしかない、2 万人以上の住民協議会となれば 9 0 0 万円を超える、それが平等といえるかという議論も当然ある。市政全般におけるバランスも考える必要がある。

問 篠田山霊園は 1 0 9, 9 6 5 坪ある。一般の方から市へ寄贈されたものだが、地元住民によっても清掃等を行っているが大変な作業となっている。環境維持の観点から市の清掃活動をこまめにしてほしいが可能か。

答 環境福祉委員会で議論していく。

問 公共下水道について、平成 1 0 年に整備されると言っていたが未だに下水が整備されないがどうなっているのか。

答 下水道工事の進捗状況としては大幅な遅れがある事は認識している。当地域の工事着工時期については現在わからない。調査して後日報告する。

問 人口減少について、多気町は増えているが松阪市は減少している。議会として人口減少についてどのように対処していくか。

答 局所的には増えている地区もあると思うが、多気町全体では松阪市と同様に人口は減少している。人口減少に歯止めをかける施策としては、企業誘致や空き家バンク制度による移住施策、子育てしやすい環境整備、地域医療の安定的な提供など、多岐にわたるものであり、議会全体で取り組んでいる。

意見 優先順位としては、篠田山霊園の環境整備を第一に考えてほしい。

第2部用【地域の中の学校づくりについて】

【主な質疑応答・意見等】

意見 近年では先生が優しすぎるのではないか。適度な厳しさをもって指導にあたってもらっても良いと思う。

意見 行政や地域の団体、住民が共働きの活動を通して、夢と希望が持てる学校教育が必要だと思う。市はそういった部分に十分な予算を充ててほしい。また、議会にはそういった議論を進めてほしい。

答 地域、学校、行政が共働していかななくてはならない。こういった考えがコミュニティスクールの基本概念だと思う。学校教育に地域や行政がどのように関わっていくか具体的に議論を重ねていく。

意見 若者の定住について、企業が高校卒業者を採用してもらうことが大切だと思う。また、中学生の体験実習には夢や希望を見出せるようなカリキュラムも考えてもらいたい。

問 若者の定住を図る方法として市長はどのように考えているのか。市長は松阪に大学を誘致したいと言っていたが現在はどうなっているのか。

答 既存の大学のサテライトを三重県内にとの話もあるがそれが松阪市になるかは現時点ではわからない。18歳人口の減少に伴い、大学としての経営も成り立たなくなるといった現状の中、文科省も学校数削減の方向性を示している。現実として難しい状況であるが、若者の定住といった課題に対し様々な方向から議論を重ねる。

問 コミュニティスクールとは地域による教育と認識している。郷土愛を育むといった観点からそういった教育を進めてほしい。

答 現在、コミュニティスクールについては鎌田中学校が進行中なので、モデルケースとして参考にしてほしい。

意見 道路の白線は歩行者にとって大切だが、消えかけているところが多い。今後、車の自動運転技術が進むと思われるが、白線がないと安全に走行できないと聞いている。様々な観点から最低限、白線だけは引き直してほしい。

問 学校の体育館は避難所として指定されているが、和式トイレばかりになっている。洋

式トイレに変えてほしい。

答 29年度、環境対策検討委員会を立ち上げ、トイレの洋式化を検討してきた。現在小学校36校、中学校11校の校舎、体育館、武道館のトイレの洋式化を進めている。最初に小学校17校、中学校6校を30年度に改修する。31年度中に残りの学校を改修する。体育館についても同様に改修する予定である。

以上